



様式第4号 (第7条関係)

令和7年9月27日

東かがわ市議会議長
工藤 正和 様

東かがわ市議会議員
(会派・個人・その他)
氏名 久米 潤子

行政視察等報告書

1	日時	令和7年8月27日～ 令和7年8月28日	
2	参加者	(委員会・会派・ <u>個人</u> ・その他) 久米 潤子	
3	研修目的等	内 容	研修場所
		第20回全国市議会議長会研究フォーラム in 札幌	北海道札幌市 (札幌文化芸術劇場)
4	研修・調査内容	別紙参照	
5	研修成果	別紙参照	
6	費用	80,000円	

※領収書(交通費・宿泊費の明細が分かるもの)、研修資料を添付してください。

【研修・調査内容】

「多様な人材の参画促進の観点から地方議会議員のなり手不足問題を考える」第20回全国市議会議長会研究フォーラムに参加するため北海道札幌市を訪れた。

研修先の「札幌文化芸術劇場 hitaru」は、札幌市民交流プラザ内の4階から9階のフロアにある。さっぽろテレビ塔が望める好立地にあった。施設内は市民交流プラザの名の通り、静かにルールを守りながら札幌市民が集い合う素敵な空間が広がっていた。

朝一番に徳島空港を出発し、羽田空港で乗り継ぎ、新千歳空港に到着した。1日目は、13時20分からの「基調講演」では、元衆議院議長 伊吹 文明氏より、「主権を預かる誇りと責任」について講演頂いた。国会議員を経験され、地方議員のことも身近に感じてきたからこそその言葉が紡がれた。「地域の主権者から預かっているのが地方議員であり、国民から預かっているのが衆議院議員、参議院議員である」、「どんな法や制度にも長所と短所がある。長所を引き出し、短所を小さくすることが議員の仕事である」、「不信任→解散→不信任→解散、では意味がない」、「財源と、市全体のこと、将来の子どもたちのことを考えて、自負と謙虚さ、そして議員としての誇りをしっかりと持ち、二元代表制として住民の声を上げていくこと」との金言を胸に刻んだ。伊吹氏が語る議員精神で構成された議会を目指していかなければならないと実感した。

14時40分から、パネルディスカッション「多様な人材の参画促進の観点から地方議会議員のなり手不足を考える」が近畿大学法学部教授 辻 陽氏をコーディネーターに、牧原 出 東京大学教授、白石 洋一 読売新聞東京本社政治部次長、山口県宇部市議会議長 山下 節子氏、北海道札幌市議会議長 長内直也氏らパネリストが意見を述べた。

パート1 「議員のなり手不足問題 人口減とどう向き合うか」で印象に残ったのは、「多様な人材とは誰でもいいのではない。どのような人材であるか。それは資質と、見識を備えた、優秀な人材を取りこむことである」、「小中学生に議員と議会の仕事知ってもらえるよう、将来世代のための主権者教育に取り組んでいる。有能な人材が議員になるための適切な水準が必要である」等々、同じ議員の立場から貴重な意見が伺えた。

パート2 「スマート自治体への転換 デジタルとどう向き合うか」で印象に残ったのは、「現在の半数の職員でサービス供給していかなければならない時がくる。その時、議員がどんな議論をするかが重要になる。今から10年後のオンライン化について検討していくことが大切だ。数値→データ→システムへ

とリテラシーの対象が変わっていく、職員・議員が十分にデジタルへのリテラシーを持つことである」とまとめられた。

パート3では、パート1、2を踏まえてさらに活発な意見交換がなされた。

2日目は、朝9時から、課題討議「地方議会議員のなり手不足問題の取組報告」が、牧瀬 稔 関東学院大学法学部地域創生学科教授をコーディネーターに、3つの市議会が事例報告を行った。

長野県岡谷市議会は、令和5年の選挙で全国唯一の市議会定数割れを経験。支援者、支持者を持たない人が当選し、半数以上が新人という事態になった。そこで、定数を削減して定数割れを防ぐことが、なり手不足の解消ではないと考え、「シンポジウム」という対話集会の開催を決めた。開催費用には全議員の政務活動費をあてるといった本気の取組である。市民に議会や議員の仕事を知ってもらえる対話集会を継続する中、議会と議員に関心を持ってくれる市民が増えてきた。次の選挙が楽しみなところまで来ているとのことであった。

鹿児島県南さつま市議会からは、長年女性議員が増える活動を続けているとの報告があった。ただ、女性なら良いというわけではなく、やはり人物重視だと語った。続けて、「なぜ議員の学校がないのに、ある日、議員になれるのか。しっかり学んで議員になってほしい」、「なり手不足は、現在の議員の責任である。一生懸命やっている議員もいるが、勉強しなければ、解釈、考察できる能力をつけなければ議員の仕事はできない。」と結ばれた。

石川県白山市議会は、今まで議会報告会や、意見交換会に来る常連の市民とは違う市民が政治や議会についてどのように思っているのか聞いてみたいと考え、議会のことを議員だけが考えるのではなく、外へ出向いて、「みんなで議会を考えるキカイ」をMGKと名付け、広聴活動に力を入れた。すると、議会に関心を持つ市民があらわれ始めた。活動を続けた結果、令和7年は、定数21人に対し25人が立候補、立候補者の半数が40代、50代であった。40代の立候補者は倍増し、40代、50代の議員が33%(令和3年)から、47%(令和7年)となった。

【研修成果】

2010年から議員のなり手不足が叫ばれ始めた。人口減少も原因の一つであるが、現職議員の働き方、議会の見える化が影響を及ぼしていることも事実である。

本市にも議会広報広聴特別委員会がある。広報活動として定例議会ごとに「議会だより」を発行しているが、今後は広聴活動にも力を入れる必要性を感じた。

特に、将来世代のための主権者教育を進めたいと考えている。例えば、①小中学生の議場見学、②議場見学をした小中学校をホームページで紹介、③教育委員会を通じた夏休みの自由研究のための議場見学、④小中学生向け「東かがわ市議会の1年間の流れ」のチラシ作成、⑤東かがわ市議会ホームページに「キッズページ」を作成、⑥夏休み子どもまちづくり体験塾(議場見学×市役所見学、議場見学×事業所見学を組合せ、地域、市役所と連携した取組)の可能性も見えてくる。

この度の研究フォーラムで、議員として資質の向上は当然ながら、将来世代に議員の仕事に関心を持ってもらえる取組、市議会の見える化を進めることが、有能な人材に本市のまちづくりに参画して頂けることに気づくことができた。ふるさと東かがわ市を誰もが安心して暮らせる持続可能なまちとするため、今できることから議会の皆さんと取り組んでまいりたい。

